



森野 克彦議員

Q 全中学校の軟式野球部の地域移行の現状と完了時期は

A 令和8年度には休日部活動の地域移行を完了するように努めていく



その他の質問

- ・大谷翔平選手からの野球グローブ寄贈時期とその取扱いについて
- ・姉妹城都市彦根市・高松市親善少年野球交歓大会について

Q 中学校の軟式野球部では満足に野球ができないとの意見があるが見解は。

A 試合と準備などの前後の活動を含めても、文部科学省が休日の活動時間として示している3時間程度に収まるため、満足に野球ができないとは考えていない。

Q 全中学校の軟式野球部の地域移行の現状と完了時期は。

A 本市における中学校の休日部活動の地域移行は、令和3年度からスタートした稲枝中学校区の実証研究に加え、今年度の11月からは市内中学校の水泳部と剣道部の地域移行の実証研究をスタートしている。軟式野球部、その他の部活動については、今後「彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会」で検討を重ね、令和8年度には休日部活動の地域移行を完了するように努めていく。



▲令和8年度に休日部活動の地域移行を目指す中学校の軟式野球部



馬場 和子議員

Q 「観光都市・彦根」の交通体系構築と利便性向上のためのスタンスは

A 交通渋滞の緩和を図り利便性向上のための組み合わせが必要である



その他の質問

- ・コロナ後遺症や帯状疱疹への市立病院の体制と対応は
- ・ひこね市文化プラザのあり方の検討は
- ・今冬の除雪への備えと体制は

Q 高速道路からはバスで彦根駅へ、彦根駅から四番町スクエアまではグリーンスローモビリティで、ご城下巡回バスは運行範囲を広げて佐和山コース等経由で城町界わいへ、中堀での屋形船と彦根での滞在時間を延伸し食事や宿泊などの経済波及効果にもつながる「観光都市・彦根」としての交通体系構築へのスタンスと利便性向上のために必要なことは。

A 過度に自家用車での移動に頼らず、歩いてゆっくり周遊してもらうことがふさわしく、移動したいときに渋滞に巻き込まれず目的地に円滑にたどり着くためにも、鉄道や路線バスなど既存の公共交通の接続を強化し、パーク・アンド・バスライドやグリーンスローモビリティ、ご城下巡回バスを組み合わせることで交通渋滞の緩和を図りながら市内中心部にアクセスしやすく周遊しやすい交通環境を目指すことが必要。



▲市内周遊の役割を果たすご城下巡回バス



中川 睦子議員

Q 農業の担い手育成事業に市の独自予算はあるのか

A 市の独自施策の予算はない



その他の質問

- ・市民参加型施設、市民農園をつくることについて
- ・ひこね市文化プラザは市民のための施設として運営されるか

Q 市の農業予算の推移は。

A 2022年度と2018年度を比較すると1億6,981万2千円の減額となり、減少傾向である。

Q 後継者をどのように育成、継承していくか。

A 本市では営農経営指導員が農業者に対し農業経営の助言を行っている。また、県では集落営農の推進や新規就農者への相談など、担い手育成に取り組まれている。

Q 全額国庫支出の担い手育成促進事業があるが、これまで市独自での予算はあるのか。

A 市の独自施策の予算はない。

Q 環境こだわり農産物の取組に全面支援で生産拡大をすべきでは。

A 「環境こだわり農業」における交付金は市が1/4（国1/2、県1/4）を負担している。新たに市独自での支援は考えていないが、環境こだわり農業の取組が増えるよう農業者に周知・啓発していく。



▲耕作されていない水田



奥野 嘉己議員

Q 文化プラザ メッセホール棟の吉田学園への賃貸の結論はいつまでに出るか

A ほぼ文化プラザ賃借の可能性はなく、年度末までに方向性を



その他の質問

- ・常勤特別職の期末手当増額について
- ・放課後児童クラブの空調機器の保守管理について

Q 9月議会時には未確認であった、借主である吉田学園のメッセホール棟賃貸に関する意向の確認は。

A 3回の面談を行い、文部科学省が定める校舎面積等の設置基準を満たせるか否かの検討を行った。また9月議会での論調を受け、他の候補案よりも可能性が低くなった。

Q 学生規模は、今まで通りの4学年で400名規模なのか。

A 採算面のこともあり、学生規模は400人となっている。

Q ほぼ可能性がないとの答弁があったが、いつ頃までには結論をつけるのか。

A 用途は令和6年6月であるが、令和6年4月に間に合わない利用者の利用計画に支障が生じるため、今年度中には一定の方向性を定めたい。



▲ひこね市文化プラザ



小川 隆史議員

Q 公共施設の効率的かつ効果的な運営のあり方の検討は

A 公共施設のあり方について定期的に見直しを行う

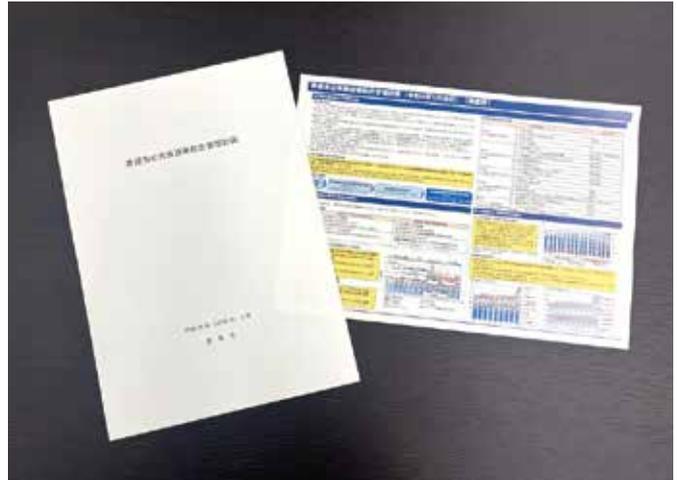


Q 公共施設の効率的、効果的なあり方の検討はいつするのか。

A 公共施設のあり方は、庁内横断的に加速して検討している。また、市長の指示のもと、定期的に見直し、可能なものは削減を図る。

Q 公共施設の民間委託・移譲といった運営体制の見直しを実施するのか。

A 公共施設が実際にどのように使用されているのかを調査し、公共施設の民間委託・移譲といった運営体制の見直しを行う。



▲彦根市公共施設等総合管理計画



小川 吉則議員

Q 市民が映画に興味を持ち、映画館に映画を観に行ってもらうには

A 幅広い市民参画による施策について検討していきたい



その他の質問

- ・重層的支援体制整備事業について
- ・茶の湯条例について
- ・アナーバー市との中学生の相互訪問について

Q 彦根市のロケ地としての魅力は。

A 本市のロケ地としての魅力は、彦根城を始めとする歴史文化遺産や豊かな自然環境などの映像資源に恵まれていることに加え、東京、名古屋、京阪神地域からのアクセスが良好であることが挙げられる。

鳥居本の「彦根オープンセット」については、様々な映画・ドラマ撮影に対応できる本格的なオープンセットであり、本市のロケ地として新たな魅力であると考えます。

Q 彦根市民が映画に興味を持ち、映画館に映画を観に行ってもらうためには。

A ロケ支援作品とタイアップしたイベント企画などを通して、市民に興味関心をもってもらい、「映画のまち 彦根」を、幅広い市民参画によるまちづくりの視点で展開できる施策についても検討していく。



▲映画「バッド・ランズ」公開パネル展